

# PART 3

## 「書く」ためのミニ英文法



英文を書く上で英文法の知識は欠かせませんし、分厚い文法書の中にはたくさんの知識が収録されています。しかし、その中のどの知識をどう使えば英文ライティングに役立つのだろう、と迷っている方も多いと思います。ここでは、生徒の答案を添削していて頻繁に発生する「定番のミス」を5つとりあげ、それを防ぐための文法の理屈と解説を試みます。

- 1 可算名詞を無冠詞単数で使うな！
- 2 副詞で文はつなげない！
- 3 部分を表す of の後ろに注意！
- 4 第3文型の動詞の受け身の後に名詞を置くな！
- 5 仮定法の世界では助動詞を忘れずに！

## 1 可算名詞を無冠詞単数で使うな!

英作文の添削をされていて群を抜いて多いのがこの誤りです。まず英語の「名詞」について、基本の確認をしておきましょう。

英語の名詞は、文法上「数えられる名詞」と「数えられない名詞」の用法があります。前者は「可算名詞」といい、辞書ではよく[C]の記号で、後者は「不可算名詞」といい、[U]の記号で表されます。

可算名詞	[C]	
不可算名詞	[U]	<ul style="list-style-type: none"> <li>不定冠詞 (a, an) をつけられない</li> <li>複数形にならない。(sはつけられない)</li> <li>数詞 (one, two, ...) はつかない。</li> <li>many, few は使えない。(量を表す much や little は使える)</li> </ul>

以下の5つのことに注意してください。

- ① 定冠詞の **the** は可算名詞も不可算名詞にもつけられる。
- ② **a lot of** は可算名詞にも不可算名詞にもつけられる。
- ③ 同じ語でも意味によって、可算名詞で使ったり、不可算名詞で使ったりすることがある。(たとえば、**work** は「仕事」の意味では不可算名詞だが、「作品」の意味では可算名詞)
- ④ 不可算名詞の中には、形容詞がついて具体化すると **a** がつけられるものもある。

lunch (昼食) → *an* early lunch (早めの昼食)  
 education (教育) → *a* good education (立派な教育)

※ ただし形容詞がついても絶対に **a** がつかない名詞もある。  
 progress (進歩) → *make rapid* progress (急速な進歩をする)

- ⑤ 不可算名詞の反復に代名詞 **one** は使えない!

This information is more reliable than that *information* [~~that one~~].

大切なことは、この**可算、不可算の区別は、意味や感覚ではなく、文法的な約束事として決まっている**ということです。実際に数えられるかどうかは関係ありませんし、ある単語が可算名詞だからといって、その同義語が可算名詞だという保証もありません。

では、この2つの区別はどう学習したらいいのでしょうか？ 実際、文法問題(特に正誤問題)でも、この2つの区別は頻繁に出題されます。そこで、とりあえずお勧めするのは以下の3点です。

- ① 文法問題で頻出する、あるいはライティングで書く可能性のある不可算名詞はある程度暗記する!

特に、**日本語の訳語から判断するといかにも数えられそうだが、実際には数えられないものは意識して覚える。**

たとえば、次のような不可算名詞は要注意です。

advice (助言)	baggage (荷物)	behavior (行動)
equipment (機器)	evidence (証拠)	fun (楽しみ)
furniture (家具)	homework (宿題)	information (情報)
news (ニュース)	paper (紙)	progress (進歩)
weather (天気)	work (仕事)	

- ② 文法書を読んで、大まかな目安、ルールを知っておく

たとえば、不可算名詞になる名詞の特徴として、以下のようなものがあります。

液体状のもの (milk, water)	粉状のもの (sugar, salt)
気体 (air, oxygen)	物質名 (glass, cloth)
抽象概念 (love, courage)	固有名詞 (Japan, Tokyo)

こうしたルールにひととおり目を通してあげば迷った際に多少の手がかりになると思います。

- ③ それ以外のものは、出てきたらその都度辞書で確認し、必要なものは覚える

software (ソフトウェア) corn (とうもろこし) poetry (詩歌)  
jewelry (宝石類) scenery (景色)

などは通例、不可算名詞です。

さて、以上で、可算名詞、不可算名詞の簡単な整理と確認が終わりました。ではここで、冒頭であげたライティングで多発する誤りについて述べておきましょう。それは「**可算名詞の単数形を裸で(前に何も置かず)使う**」という誤りです。可算名詞、たとえば、bookという語を文中で単数形で使うとすると次の①~④のいずれかの形になるはずです。

- ① 冠詞をつける: a book, the book
- ② 所有格をつける: my book, Tom's book
- ③ 指示形容詞をつける: this book, that book
- ④ その他、次のような語をつける: any book (どんな本でも), some book (なんらかの本), each book, every book, either book

つまり、bookという単語の単数形を上①~④にあげた以外の形で使うことは原則ないということです! しかし、この誤りは英文の添削をされていていばん多い誤りで、特に冠詞と名詞の前に形容詞などが入り込むときに、冠詞が抜ける誤りが多いように思います。ぜひ、気をつけてください。

- × when I was college student
- when I was a college student

## 2 副詞で文はつなげない!

〈主語(S) + 動詞(V)〉を含む文(以下、単に「文」と言います)を2つ(または2つ以上)並列する場合、「接続詞」、「関係詞」、「疑問詞」のどれかが必ず必要になります。話が煩雑になるのを避けるため、ここでは話を「接続詞」に限って説明しましょう。

たとえば「私は昨夜疲れていた」「早く寝た」という2つの文をつなげる場合、

× I was tired last night, I went to bed early.

とは書けません。原則、以下のどちらかの接続詞を使ってつなげます。

- ① 等位接続詞 (and, but, orなど) を使う  
I was tired last night, **and** I went to bed early.
- ② 従属接続詞 (as, because, if, since, thatなど) を使う。  
**Since** I was tired last night, I went to bed early.

この「**接続詞**」がないと2文がつなげられない、という原則ははっきりと意識するようにしてください。(ただし歌の歌詞とか詩歌のようにリズムを重んじる場合などでは例外的に接続詞がない場合もありえます)

さて、英文を読んでみると、接続詞ではないけれども、意味的には接続詞に感じられる「**接続詞もどき**」の語句があります。たとえば以下のような語句です。

however (しかしながら)	therefore (したがって)
thus (かくして)	nevertheless (それにもかかわらず)
otherwise (そうしないと)	instead (その代わり)
especially (中でも特に)	moreover (その上)

これらは接続副詞と呼ばれる「副詞」の一種であって、「**接続詞**」ではありません。ですから、次のように2組の〈S + V〉をつなぐことはできません。